

突撃！インタビュー

衛星をつくるひと



夢をずっと持ち続け、それにむかって努力すること！
萩原明早香



今日は、JAXA宇宙基幹システム本部 H-IIAプロジェクトチームの萩原明早香さんにお話をうかがいます。東京都出身で日本大学理工学部航空宇宙工学科を卒業されました。NASDA（現JAXA）入社後は、種子島宇宙センターでH-IIロケットの打上げに携わり、その後地球観測衛星や、お天気衛星（ひまわり6号）の地上設備の開発など「ロケット、人工衛星」という宇宙開発の花形業務を経験されました。今またH-IIAロケットの打上げを行う射場のお仕事をされています。ではさっそく突撃！

編集部（以下編）：現在担当されているH-IIAプロジェクトチームでのお仕事は？

萩原さん（以下萩）：人工衛星を種子島に運び込む前後に、人工衛星、H-IIAロケット、宇宙センターの設備それぞれの規格の違いを調整する仕事です。人工衛星とロケット、双方の要求をうまくすりあわせる「人工衛星とロケットをつなぐ仕事（ペイロードインターフェース）」と言えますね。普段は筑波宇宙センターで勤務していますが、人工衛星が種子島に入ると同時に別途「ペイロードインターフェース担当」の種子島での作業も始まります。

編：種子島に人工衛星が搬入されてからの作業期間は？

萩：JAXA衛星は、だいたい3ヶ月くらいです。商業衛星は、1ヶ月半くらいでしょうか。ずっと種子島にいるわけではなく、2週間くらいのローテーションで作業への立ち会いや調整を行います。

編：種子島に入った人工衛星は打ち上げまでにどんな作業が？

萩：筑波ですべての試験を終えた人工衛星は種子島宇宙センターへ運ばれます。そこで人工衛星は再び組立てられ、さまざまな確認試験を行います。その後、衛星フェアリングに人工衛星を入れ、宇宙で自分の姿勢や軌道を制御するための推進薬を充填します。衛星フェアリングに入れられた人工衛星は、VAB（ロケット整備組立棟）でH-IIAロケットの最上部に搭載され、打上げ当日に射点に運ばれます。

編：この一連の流れの中でどんなお仕事をされているのですか？

萩：人工衛星側とH-IIAロケット側との間にあって、両者の仕様を考え、調整します。ロケットの飛行解析、打上げ能力、衛星やロケットの出す電波が互いの機能に影響があるか、打上げ時期と一緒に打ち上げる人工衛星の数やフェアリングの形によってもロケットの振動が変わってくるなど…、本当に配線1本のレベルまで、調整項目は非常に多岐にわたりますので、これをいかに

まとめていくかが非常に難しいです。

編：現在のお仕事でどんなときにやりがいを感じますか？

萩：まだ、担当している人工衛星が打ち上がっていないので大きなやりがいは実感していませんが、問題なく打ち上がって、ちゃんと仕事してくれたときやりがいを感じられるんじゃないかなと思っています。小さなやりがいとしては、難しい調整がうまくまとまったときはうれしいですね。その積み重ねです。

編：宇宙開発を志したきっかけはなんだったんですか？

萩：中学、高校と、宇宙少年団に入っていて、中学2年の時、アメリカで開催された国際会議に出席しました。各国（アメリカ、カナダ、ロシアなど）の子供達との交流を通して、宇宙は国境がない素晴らしい分野であることを感じ、将来宇宙開発の仕事につきたいと思ったのがきっかけだったと思います。国を超えた分野で働きたいなと強く思いました。

編：今後会社でどんなことをやりたいですか？

萩：まずは今担当している人工衛星が、問題なく初期軌道へ投入されるようにしっかり調整したいと思います。その後は、人工衛星プロジェクトで衛星開発に携わりたいですね。地球観測衛星のデータを使って地球の変化の調査や解析をして、今後の地球環境の予測ができれば面白いと思います。沖縄の珊瑚の白化と海水温度との関係や赤土の影響なども、宇宙から見れば一目瞭然なんです。

編：宇宙開発をしなくなったら、今何をしていますか？

萩：医師になって、「国境なき医師団」に参加し、世界中の多くの人々を助けるために働いていたと思います。

編：マイブームを教えてください！

萩：今年2月のH-IIAロケット7号機打上げの時は、衛星分離のデータ取得とH-IIAロケットの第2段エンジン再々着火実験データ取得のため、チリのサンチャゴに出張していました。その影響でその時以降、チリワインにはまっています。シーフードによく合うんですよ。あと、スペイン語も勉強しています。それと最近結婚したので、仕事と家庭の両立ですかね。

編：最後に読者へ一言お願いします！

萩：夢をずっと持ち続け、それにむかって努力すること！

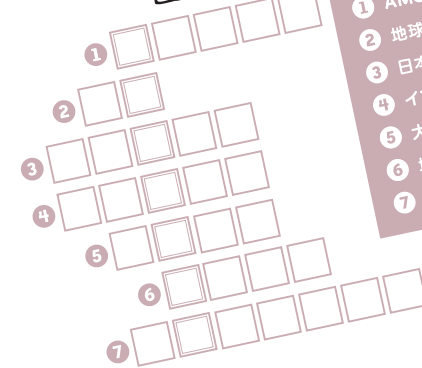


カリ出張の影響で、チリワインはまっています！

Satellite Crossword? Puzzle

1から7までの答えをマスに書き入れ、ヨコのマスが全部埋まったら完成！
タテの二重マスをつなげて読むと、テーマにそったキーワードが…。

ぜんぶカタカナで答えてネ！



- 1 AMSR-Eは計画された3年の「○○○○○」を達成しました。
- 2 地球の表面積の70%が「○○」で満ちています。
- 3 日本列島はお魚や貝など「○○の○○」に恵まれています。
- 4 インタビューに答えていただいた萩原明早香さんが今はまわっているお酒は？
- 5 インタビューに答えていただいた萩原明早香さんが今はまわっているお酒は？
- 6 大地を見守るALOSは日本が世界に誇る「○○○○観測技術衛星」です。
- 7 地球観測衛星は搭載している「観測○○○○」によってデータを取得します。
- 8 ALOSにはビック&パワフルな「○○○○○○パドル」が搭載されています。

テーマは地球を見まもる



こたえはコチラ！ → <http://www.satnavi.jaxa.jp/magazine/>

JAXA宇宙利用推進本部のホームページに、パズルの解答を掲載しています。ホームページでは、各キーワードについてさらに詳しい解説へのリンクも用意しています。ぜひご活用ください。
★このミニマガジンの最後のページにも、パズルのこたえがかくされています。探してみよう！

『サテ★カフェ』ファン大募集！

『サテ★カフェ』は、フリーペーパーです。毎回欠かさず読みたい！

学校・団体・お店に置いてみたい！というリクエストにお応えし、定期配布の受け付けもスタート。いまなら送料無料で『サテ★カフェ』をお送りします。はがき、電話またはFAXにてお問い合わせください。

あてさきはこちらまで

〒305-8505 つくば市千現 2-1-1 宇宙航空研究開発機構
宇宙利用推進本部「サテ★カフェ編集室」
TEL:029-868-5090 FAX:029-868-5987
※住所・所属・氏名・電話番号を明記してください。

これまでに発行されたバックナンバーは、PDF形式でホームページでも公開しています。

前編集担当の森です。突然ですが、Vol.7をもって『サテ★カフェ』の編集担当を卒業いたしました。今号からは、私も「いちサテ★カフェファン」として楽しみに読ませていただきたいと思います。みなさま、ありがとうございました。（森）



編集後記

Editors Voice

この時期になると「今年もあつという間でしたね。」というのが挨拶代わりにあります。それだけ充実した1年だったのかも知れませんね。本当に速い1年でした。2006年はどんな年になるのでしょうか？
P.S 森さん楽しみが増えましたね？サテ★カフェ編集お疲れ様でした。（吉井）

